評価規準と手立て表

　知識　A-1

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  知識  Ａ-１ | 2段階 | ・　球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、教師の例示を基に言ったり書き出したりしている。 | ○　ICT機器を活用し、映像や写真で説明することで、様々な球技の種目があることに気付かせる。  ○　球技は、基本的な技能の習得や仲間と連携し、力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができる運動だということを助言する。 |
| 1段階 | ・　球技には、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、選択肢から選び、言ったり書き出したりしている。 | ○　ICT機器を活用し、映像や写真で説明することで、様々な球技の種目があることに気付かせる。  ○　球技は、基本的な技能の習得や仲間と連携し、力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができる運動だということを助言し、学習カードの中の選択肢から選ばせる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　球技には、友達と力を合わせてゲームをしたり体を動かしたりする運動があることを知り、球技の楽しさや喜びに触れている。 | ○　ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。  ○　意欲を高めるために、動きの模倣や教師の手本を多く取り入れる。  ○　動機付けや内容、教材などを工夫する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  知識  Ａ-１ | 2段階 | ・　球技には、集団対集団、個人対個人の攻防があることを知り、簡易的なゲームの中で、必要な技能を、自分一人で選択肢から選び、言ったり書き出したりしている。 | ○　ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。  ○　簡易的なゲームの中で、必要な技能を選択肢から選ばせる。  ○　全体の前で発表する場面やチームボードに選ばせる場面を設定する。 |
| 1段階 | ・　球技には、仲間との連携のために必要な基本的な技能の習得が大切であることを知り、自分一人で又は教師と一緒に選択肢から選んでいる。 | ○　ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。  ○　練習や簡易的なゲームの中で、基本的な技能を選択肢から選ばせる。  ○　グループ内で発表する場面やチームボードに選ばせる場面を設定する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　球技はボール等を使い、ゲームをしたり、体を動かしたりする運動であることを知っている。 | ○　ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。  ○　練習や簡易的なゲームの中で、基本的な技能を選択肢から教師と一緒に選ばせる。  ○　教師と一緒に発表する場面やチームボードに選ばせる場面を設定する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  知識  Ａ-１ | 3段階 | ・　球技には、友達と力を合わせて、ゲームをしたり体を動かしたりする運動があることを知り、球技の楽しさや喜びに触れている。 | ○　ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。  ○　前時までのボール運動の学習を振り返られるように、写真や映像を見せながら助言する。 |
| 2段階 | ・　友達と一緒に運動をすることは楽しいことだと知っている。 | ○　ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。  ○　様々な体育の学習を通して、写真や映像を見ながら助言する。 |
| 1段階 | ・　友達や教師と一緒に運動をすることは楽しいことだと知っている。 | ○　ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。  ○　様々な体育の学習を通して、教師と一緒に写真や映像を見ながら共感する。 |

知識A-2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  知識  Ａ-２ | 2段階 | ・　球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を教師の例示を基に挙げている。 | ○　ICT機器を活用して、各種目の技術や練習する際のポイントを動画や写真で説明する。  ○　実際に教師が手本を見せ、よい例や悪い例を具体的に説明して練習を行う際のポイントに気付かせる。  ○　板書や学習カードを工夫することで、これまでの振り返りや学習の過程が分かるようにし、発表や学習カードの記入につなげる。 |
| 1段階 | ・　球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を選択肢から選んで挙げている。 | ○　ICT機器を活用して、各種目の技術や練習する際のポイントを動画や写真で説明する。  ○　実際に教師が手本を見せ、よい例や悪い例を具体的に説明して練習を行う際のポイントに気付かせる。  ○　板書や学習カードを工夫することで、これまでの振り返りや学習の過程が分かるようにし、学習カードの中の選択肢から選ばせる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　球技には、ボールをつく、転がす、投げる、当てる、蹴る、捕るなどのボール操作があることを知り、学習した具体例を教師と一緒に選択肢から選ぶことができる。 | ○　ICT機器を活用し、各種目の動きを動画や写真で見せて、大まかなイメージをもたせる。  ○　教師と一緒に練習を行い、様々なボール操作があることに気付かせる。  ○　学習カードを用いて、簡単なボール操作の名称と動きが一致するように、教師と一緒に選ぶ。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  知識  Ａ-２ | 2段階 | ・　球技の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを知っている。 | ○　ICT機器を活用し、各種目の技術やポイントを映像や写真で見せる。  ○　教師や得意な生徒が手本を見せ、具体的にポイントを説明しながら理解を促す。  ○　授業の導入や振り返りで、授業で行った技術やポイントを動画で振り返る機会を設ける。 |
| 1段階 | ・　球技の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントに触れている。 | ○　ICT機器を活用し、各種目の技術やポイントを映像や写真で見せる。  ○　教師や得意な生徒が手本を見せ、具体的にポイントを説明しながら理解を促す。  ○　授業の導入や振り返りで、授業で行った技術やポイントを動画で振り返る機会を設ける。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　球技の各種目において用いられる技術の名称に触れ、教師と一緒に選択肢から選ぶことができる。 | ○　ICT機器を活用し、各種目の技術やポイントを映像や写真で見せる。  ○　活動の中で、教師と一緒に技術の名称やポイントを復唱したり、確認したりする。  ○　授業の導入や振り返りで、授業で行った技術やポイントを教師と一緒に動画で振り返る機会を設ける。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  知識  Ａ-２ | ３段階 | ・　パスやドリブル、シュートなどのボール操作をしながら、得点することを知っている。 | ○　ICT機器を活用し、パスやドリブル、シュート場面を映像や写真で見せる。  ○　意欲を高めるために、動きの摸倣や教師の手本を多く取り入れる。 |
| ２段階 | ・　投げる、転がす、捕るなどのボール操作をしながら、ボールをゴールまで運ぶことを知っている。 | ○　ICT機器を活用し、様々なスポーツの投げる、転がす、捕るなどの場面を映像や写真で見せる。  ○　簡単なボール操作の名称と動きが一致するように教師の支援を受けながら選ばせる。 |
| １段階 | ・　投げる、転がす、捕るなどのボール操作があることを知っている。 | ○　ICT機器を活用し、様々なスポーツの投げる、転がす、捕るなどの場面を映像や写真で見せる。  ○　簡単なボール操作の名称と動きが一致するように教師と一緒に選ばせる。 |

技能　B－１

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  技能  Ｂ-１ | 2段階 | ・　ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 | ○　守備者がいない位置をポイントで示したり、教材教具を使ったりして具体的に説明する。  ○　相手に近づかず、少し距離をとって打つように助言する。  ○　守備者をかわすための動きや、ボールの受け方を具体的に指導する。 |
| 1段階 | ・　ゴールに体を向けてシュートを打つことができる。 | ○　守備者をかわすための動きや、ボールの受け方を具体的に指導する。  ○　ボールミートの際に、足の向きが分かるようなポイントを置くことで、ゴールに体を向けることができるように意識させる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師の指示や支援を受け、ゴールに体を向けてシュートを打つことができる。 | ○　ボールミートの際に、足の向きが分かるようなポイントを置くことで、ゴールに体を向けることができるように意識させる。  ○　教材教具を工夫し、ゴールに注目させる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  技能  Ｂ-１ | 2段階 | ・　ボールを持ったときに、ゴールに体を向けることができる。 | ○　ゼッケンを着用させ、ゲーム前に自分のチームのゴールを確認させる。  ○　ゲーム中、教師や周りで応援している生徒にも協力してもらい、言葉掛けを行う。  ○　ICT機器を活用し、ゲームの様子を動画で撮影し、ゲーム後に動画で振り返らせる。 |
| 1段階 | ・　ボールを持ったときに、教師の指示を受け、ゴールに体を向けることができる。 | ○　ゼッケンを着用させ、ゲーム前に自分のチームのゴールを確認させる。  ○　ボールミートの際に、足の動かし方や体の向きを段階的に指導する。  ○　ICT機器を活用し、ゲームの様子を動画で撮影し、ゲーム後に動画で振り返らせる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　ボールを持ったときに、教師の指示や支援を受けて、ゴールに体を向けることができる。 | ○　ゼッケンを着用させ、ゲーム前に自分のチームのゴールを確認させる。  ○　ボールミートの際に、足の動かし方、体の向きを段階的に指導し、教師と一緒に確認させる。  ○　ICT機器を活用し、ゲームの様子を動画で撮影し、ゲーム後に教師と一緒に動画で振り返らせる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  技能  Ｂ-１ | ３段階 | ・　ねらったところにボールを転がしたり、投げる、蹴るなどしたりしてゴールにシュートをして得点したりすることができる。 | ○　ＩＣＴ機器を活用し、シュートの動画を見せイメージをもたせる。  ○　教師と一緒にシュートする角度や距離などを調整し、成功体験を積ませる。 |
| ２段階 | ・　ねらったところにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして的に当てたり得点したりすることができる。 | ○　ＩＣＴ機器を活用し、シュートの動画を見せ、イメージをもたせる。  ○　的にイラストを貼り、注目させ、教師と一緒に目的の方向に体を向けるように助言する。 |
| １段階 | ・　ボールを転がす、投げる、蹴るなどして、的に当てることができる。 | ○　教師の動きを模倣させ、ボールを手や足から離す動きを段階的に指導する。  ○　的までの距離を個々に応じて調整する。 |

技能B―２

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  技能  Ｂ-２ | 2段階 | ・　マークされていない味方にパスを出すことができる。 | ○　２対１や３対２のようなアウトナンバーの状況を作り、マークされていない相手にパスを出すというイメージをもたせる。  ○　味方が走り込むタイミングに合わせてパスを出せるように、パスを出す位置に目印を置いたり、タイミングを繰り返し練習したりする。  ○　状況に応じてパスが出せるように、ピボットを踏むように指導する。 |
| 1段階 | ・　近くにいるフリーの味方にパスを出すことができる。 | ○　フリーの味方を探すように助言する。  ○　フリーの状態になった味方は、声を出してボールを呼ぶように助言する。  ○　パスの種類の選択（チェストパス・バウンドパス・オーバーヘッドパス・ショルダーパスなど）ができるように、状況に応じた練習を行う。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　味方にボールを手渡したり、パスを出したりすることができる。 | ○　味方と敵チームの区別ができるように、ゼッケンを着てチームメイトが分かるようにする。  ○　ボールを使ったゲームを取り入れ、ボールの扱いや仲間と協力することに慣れさせる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  技能  Ｂ-２ | 2段階 | ・　コート内で攻守入り交じって、味方にパスをする、シュートする、ドリブルをすることができる | ○　ゼッケンを着用し、味方を分かりやすくする。  ○　フリーの味方を探すように助言する。  ○　同じチームの中で、声を出してボールを呼ぶように助言する。 |
| 1段階 | ・　決められた動きの中で味方にパスをする、シュートする、ドリブルをすることができる。 | ○　ゼッケンを着用し、味方を分かりやすくする。  ○　１対１や小グループでパス、シュート、ドリブルの練習を繰り返す。  ○　オフェンスとディフェンスの人数比を工夫し、活動しやすい場を設定する。  ○　同じチームの中で、声を出してボールを呼ぶように助言する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師の指示や支援を受けて、パスやドリブル、シュートをすることができる。 | ○　ボールを使った活動を多く取り入れ、教師と一緒にボールに触れる時間を多く設定する。  ○　ゼッケンを着用させ、同じ色のゼッケンの人に渡すように言葉掛けや支援を促す。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  技能  Ｂ-２ | 3段階 | ・　友達と一緒にボールを投げる、捕る、蹴る、止めるなどの動きでキャッチボールやパスをしたり、ゴールに向かってシュートをしたりすることができる。 | ○　ＩＣＴ機器や教師の手本を見せて模倣させる。  ○　パスを受けるために声や合図を出して、ボールの受け方の手本を示す。 |
| 2段階 | ・　つく、転がす、投げる、当てる、捕る、打つ、蹴る、止めるなどの簡単な操作を行うことができる。  ・　先生や友達とボールの蹴り合いをすることができる。 | ○　ＩＣＴ機器や教師の手本を見せて模倣させる。  ○　互いの距離を調節しながら、段階的に距離を伸ばしていく。 |
| 1段階 | ・　ボールを転がす、投げる、蹴ることができる。 | ○　教師と一緒に手や足を動かし、ボールを扱う動きをイメージさせる。 |

技能B-3

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  技能  Ｂ-３ | 2段階 | ・　得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 | ○　前方にスペースがあり、走り込んでシュートが狙える味方にパスを出すように助言する。  ○　味方が走り込んでくる空間にパスが出せるように、パスを出すタイミングを繰り返し練習する。  ○　パスの種類の選択（チェストパス・バウンドパス・オーバーヘッドパス・ショルダーパスなど）ができるように、状況に応じた練習を行う。 |

技能B－４

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  技能  Ｂ-４ | 2段階 | ・　パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 | ○　周囲の様子を見ながらドリブルすることを意識するように助言する。  ○　相手に取られないパスを選択するように指導する。  ○　ドリブルのチェンジングを状況に応じて使えるように指導する。  ○　強いドリブルとスピードの変化をつけるように助言する。 |
| 1段階 | ・　相手に捕られない位置でドリブルをすることができる。 | ○　ドリブルをついている逆の手でボールを守るようにガードするように助言する。  ○　左右の手でドリブルをコントロールできるように、ドリブルを繰り返し練習して慣れさせる。  ○　ドリブル鬼ごっこなど遊びの要素を入れながら、段階的に指導する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　ボールを見ながら連続でドリブルをすることができる。 | ○　ドリブル鬼ごっこなど遊びの要素を入れながら、段階的に指導する。  ○　教師の動きを模倣させ、ボールを手から離す動きを段階的に指導する。  ○　音や視覚的な教材を使用する。 |

技能B-5

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  技能  Ｂ-５ | 2段階 | ・　ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 | ○　ボールとゴールが見える位置の確認を教師や仲間と一緒に行う。  ○　視野の確保やゴールがどこの位置にあるのかをイメージさせておく。  ○　止まったままボールを受けるのではなく、シュートにつながるボールの受け方ができるように、受け方の練習を行う。 |
| 1段階 | ・　ボール保持者と自己の間に守備者が入らないようにして攻撃に参加することができる。 | ○　空いている場所がどこなのか、チームボードやＩＣＴ機器を活用して具体的に説明したり、その状況を作って実際に確認したりする。  ○　ボールに寄ってスペースを狭くしないように、ボールを持たないときの動きを具体的に指導する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　味方や教師の言葉掛けを聞いて攻撃に参加することができる。 | ○　攻防ではなく、攻撃タイムを設定し、教師の支援を受けながらボールを持って運ぶ、転がす、投げる、ドリブルなどで、ボールをゴールに向かって前進させる。 |

技能B-6　　技能B-7

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  技能  Ｂ-６ | 2段階 | ・　パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 | ○　空いている場所がどこなのか、具体的に説明したり、その状況を作って実際に確認したりする。  ○　シュートをねらえる位置に走り込むよう助言したり、目印をつけたりする。  ○　パスを受けるために、手を挙げたり、声を出したりして合図するようにボールの受け方を工夫させる。 |
| 1段階 | ・　ボール保持者と自己の間に守備者が入らないようにして攻撃に参加することができる。 | ○　空いている場所がどこなのか、具体的に説明したり、その状況を作って実際に確認したりする。  ○　ボールに寄ってスペースを狭くしないように、ボールを持たないときの動きを具体的に指導する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　味方や教師の言葉掛けを聞いて攻撃に参加することができる。 | ○　攻防ではなく、攻撃タイムを設定し、教師の支援を受けながらボールを持って運ぶ、転がす、投げる、ドリブルなどで、ボールをゴールに向かって前進させる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  技能  Ｂ-５・Ｂ-６ | 2段階 | ・　ボール保持者と自分の間に守る者がいないように移動することができる。 | ○　ボールを保持していないときの動きで、目印に移動させ、動き方を繰り返し練習させる。  ○　オフェンスとディフェンスの人数比を工夫し、活動しやすい場を設定する。 |
| 1段階 | ・　ボール保持者と自分の間に守る者がいないように、決められた動きの中で移動することができる。 | ○　ボールを保持していないときの動きで、目印に移動させ、動き方を繰り返し練習させる。  ○　パターン化された動きを設定し、動き方を習得させる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　味方や教師と一緒に攻撃に参加することができる。 | ○　目印や教師の言葉掛けを多く取り入れ、決まった場所に動く練習を繰り返し行う。  ○　練習や簡易的なゲームの中で、ルールを工夫しパスしたり動いたりすることで得点へつながることの達成感を味わわせる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  技能  Ｂ-７ | 2段階 | ・　ボールを持っている相手をマークすることができる。 | ○　ボール保持者とゴールを結んだ線上に立ち、低い姿勢で左右どちらにも対応できるように準備させる。  ○　ワンアームの間隔でスライドステップとクロスステップの足の使い方を確認し、ステップを上手く使ってマークすることを意識させる。  ○　ハンズアップをさせることで、自分を大きく見せ、ボールに対して素早く反応できることを確認する。 |
| 1段階 | ・　ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。 | ○　ボール保持者とゴールを結んだ線上にポイントを置き、どのポジションにいてもオフェンスとディフェンスの関係が分かるように、ポジションを確認する練習を繰り返しさせる。  ○　ボール保持者の動きに合わせてディフェンスをしてついていく練習を、段階的に練習する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師と一緒にボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。 | ○　ボール保持者とゴールを結んだ線上にポイントを置き、どのポジションにいてもオフェンスとディフェンスの関係が分かるように、教師と一緒にポジションを確認する練習を繰り返しさせる。  ○　ボール保持者の動きに合わせてディフェンスをしてついて行く練習を、教師と一緒に確認しながら行う。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  技能  Ｂ-７ | 2段階 | ・　ボール保持者の対面に立ち、守ることができる。 | ○　ボール保持者とゴールを結んだ線上にポイントを置き、どのポジションにいてもオフェンスとディフェンスの関係が分かるように、ポジションを確認する練習を繰り返しさせる。  ○　ボール保持者の動きに合わせてディフェンスをしてついていく練習を、段階的に練習する。 |
| 1段階 | ・　自分が守る相手についていくことができる。 | ○　ゼッケンを着用させ、どのポジションにいてもオフェンスとディフェンスの関係が分かるように、教師と一緒にポジションを確認する練習を繰り返しさせる。  ○　ボール保持者の動きに合わせてディフェンスをしてついていく練習を、教師と一緒に確認しながら行う。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　味方や教師と一緒に守備に参加することができる。 | ○　目印や教師の言葉掛けを多く取り入れ、決まった場所に動く練習を繰り返し行う。  ○　練習や簡易的なゲームの中でルールを工夫し、ボール保持者の動きに合わせてついていく練習を教師と一緒に行う。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  技能  Ｂ-７ | ３段階 | ・　逃げる相手を追いかけて、しっぽ（マーク）を捕ったりすることができる。  ・　相手にしっぽ（マーク）を捕られないように、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりすることができる。 | ○　実態に応じて、しっぽ（マーク）の長さや数を工夫する。  ○　空いている場所がどこなのか具体的に説明したり、その状況をつくって実際に確認したりする。 |
| ２段階 | ・　教師と一緒に逃げる相手を追いかけて、しっぽ（マーク）を捕ったりすることができる。 | ○　実態に応じて、しっぽ(マーク)の長さや数を工夫する。  ○　空いている場所がどこなのか言葉掛けを行い、教師と一緒に動きながら確認する。 |
| １段階 | ・　教師が誘導する方向へ移動することができる。 | ○　相手のしっぽ（マーク）の色や逃げる相手の名前を教師と一緒に確認する。  ○　空いている場所がどこなのか言葉掛けを行い、教師と一緒に動きながら確認する。 |

思考・判断・表現C-1

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  思考  判断  表現  Ｃ-１ | 2段階 | ・　提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カードを使って、自己やチームの課題を振り返り、課題を確認させる。  ○　ＩＣＴ機器や学習カードを使って、具体的な練習方法を助言し、その練習を行うことでどのような力が身に付くのかを説明する。  ○　各チームの監督役の教師も一緒に話し合いに参加し、課題に応じた練習方法を選択できるように助言する。 |
| 1段階 | ・　提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 | ○　前時の課題を振り返らせ、どの場面につまずきがあるかを教師と一緒に考えて助言する。  ○　ＩＣＴ機器や学習カードを使って、具体的な練習方法を助言し、その練習を行うことでどのような力が身に付くのかを説明する。  ○　各チームの監督役の教師も一緒に話し合いに参加し、課題に応じた練習方法を選択できるように助言する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　提供された練習方法から、教師と一緒に自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 | ○　前時の課題を教師と一緒に振り返ることで、これまでの練習内容や方法を確認させる。  ○　教師と一緒に具体的な練習内容や方法を確認することで、ＩＣＴ機器や学習カード、イラストカードなどを使って練習内容を選ぶことができるように助言する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  思考  判断  表現  Ｃ-１ | 2段階 | ・　提供された練習方法を通して、教師と一緒に自己やチームの課題を見付けている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード、イラストカードを活用し、実際の映像や写真、図などで仲間と協働する練習方法を提示し、練習のイメージをつかませる。  ○　前時の課題を教師と一緒に確認することで、これまでの練習内容や方法の確認ができることを説明する。 |
| 1段階 | ・　提供された練習方法を通して、教師と一緒に自己の課題を見付けている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード、イラストカードを活用し、実際の映像や写真、図などで練習方法を提示し、練習のイメージをつかませる。  ○　教師と一緒に練習方法を確認することで、ＩＣＴ機器や学習カードなどを使って課題を見つけることができるように助言する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　提供された練習方法を通して、教師と一緒に自己の課題を選択肢から選んでいる。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード、イラストカードを活用し、実際の映像や写真、図などで練習方法を提示し、練習方法を教師と一緒に確認する。  ○　教師と一緒に練習方法を確認することで、ＩＣＴ機器やイラストカードなどを用いて課題を選んだり  見たりできるように助言する。 |

思考・判断・表現C-2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  思考  判断  表現  Ｃ-２ | 2段階 | ・　仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 | ○　学習カードや体育ファイルを振り返らせ、仲間や自分の役割を確認させる。  ○　仲間同士でお互いの役割を確認し合うように助言する。 |
| 1段階 | ・　仲間と協力する場面で、役割に応じた活動の仕方を見付けている。 | ○　学習カードや体育ファイルを振り返らせ、自分の役割が明確に分かるように助言する。  ○　教師や仲間と一緒に、自分の役割や仕事内容を確認させる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師や仲間と一緒に協力し、自分の役割に気付くことができる。 | ○　学習カードや体育ファイル、写真や動画を見せることで、担当する準備物や片付けなどの自分の役割に気付かせる。  ○　教師や仲間と一緒に、自分の役割や仕事内容に気付かせる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  思考  判断  表現  Ｃ-２ | 2段階 | ・　提供された活動場面に応じた役割から、自分の役割を見付けている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード等で提示された活動方法から、自分の役割に気付かせる。  ○　教師と一緒に役割を確認し、自分の仕事内容や状況に応じた活動を確認させる。 |
| 1段階 | ・　提供された活動場面に応じた役割から、自分の役割を教師と一緒に見付けている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード等で提示された活動場面に応じた活動方法から、教師と一緒に自分の役割を見付けさせる。  ○　教師と一緒に、自分の仕事内容や状況に応じた活動を確認する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　提供された活動場面に応じた役割から、教師と一緒に自分の役割を知ることができる。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード等で提示された中から、教師と一緒に自分の役割を確認する。  ○　教師と一緒に、自分の仕事内容や状況に応じた活動を確認する。 |

思考・判断・表現C-3

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  思考  判断  表現  Ｃ-３ | 2段階 | ・　技能の程度を踏まえ、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 | ○　練習内容や習得状況を確認することで、自分の技能の到達点や、仲間の状況などを確認させる。  ○　自己選択や自己決定の場を設定することで、課題解決に向けて積極的に考えさせる。  ○　ICT機器を活用し、動画で動きを確認することで、仲間と課題を発見し、解決のための方法を考えさせる。 |
| 1段階 | ・　技能の程度を踏まえ、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法に気付くことができる。 | ○　練習内容や習得状況を確認することで、自分の技能の到達点を確認させる。  ○　課題に応じた練習法を提示することで、自己選択や自己決定をさせる。  ○　ICT機器を活用し、動画で動きを確認することで、仲間と課題を発見し、解決のための方法を考えさせる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　楽しむための練習やゲームを行う方法を教師と一緒に見付けることができる。 | ○　課題に応じた練習法を提示することで、教師と一緒に自己選択をさせる。  ○　ICT機器を活用し、動画を見ることで、自分の動きに気付かせる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  思考  判断  表現  Ｃ-３ | 2段階 | ・　仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付けている。 | ○　ＩＣＴ機器やイラストカード等で提示された複数の練習方法から、全員で協働できる練習方法やゲームに気付かせる。  ○　課題に応じた練習方法を提示することで、自己選択や自己決定をするように促す。 |
| 1段階 | ・　仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を教師と一緒に見付けている。 | ○　ＩＣＴ機器やイラストカード等で提示された複数の練習方法から、教師と一緒に仲間と協働できる練習方法やゲームを見付けさせる。  ○　課題に応じた練習方法を提示し、教師と一緒に選択させる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　楽しむための練習やゲームを行う方法を教師と一緒に見付けている。 | ○　ＩＣＴ機器やイラストカード等で提示された複数の練習方法から、教師と一緒に活動できる内容を見付けさせる。  ○　課題に応じた練習方法を教師と一緒に確認し、実態に合った練習方法を提案する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  思考  判断  表現  Ｃ-１  C-2  C-3 | 3段階 | ・　自分が取り組みたい活動を主体的に選択している。 | ○　使用した用具や場所の確認を行い、ＩＣＴ機器を活用して運動の動画を確認し、取り組みたい活動をボードに貼り、伝えられるように時間を設定する。  ○　前時までの活動で成功体験を積ませ、自信をもって選ぶことができるように助言する。 |
| 2段階 | ・　自分が取り組みたい活動をイラストカードから選択している。 | ○　教師と相談する際に、自分の考えをイラストカードを使用して選択したり、伝えたりする場面を設定する。  ○　前時までの活動で体験を積ませ、取組のよかった活動から選ぶことができるように言葉掛けをする。 |
| 1段階 | ・　教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組んでいる。 | ○　前時までの授業で児童が興味を示した用具や場所を提示したり、ＩＣＴ機器を活用して運動の動画を確認したりすることで興味を示すのを待つ。  ○　表情や態度から意思を読み取り、興味を示した場所に誘導し、自発的に取り組もうとするのを待つ。動きがない場合は介助したり言葉掛けをしたりする。 |

思考・判断・表現C-4

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  思考  判断  表現  Ｃ-４ | 2段階 | ・　仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝え、チームへの関わり方を見付けている。 | ○　生徒が考えを整理したり、書き出したりする時間を多く設定することで、話合いへの関わり方やマナーを学ばせる。  ○　具体例を交えながら教師も一緒に話合いに参加することで、積極的な意見を促し、互いの意見を言い合えるような雰囲気づくりをする。  ○　互いのよさについて伝え合い、学んだことを客観的に確認させることで、チームへの関わり方について気付かせる。 |
| 1段階 | ・　仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝えている。 | ○　生徒が考えを整理したり、書き出したりする時間を多く設定することで、話合いへの関わり方やマナーを学ばせる。  ○　具体例を交えながら教師も一緒に話合いに参加することで、積極的な意見を促し、互いの意見を言い合えるような雰囲気づくりをする。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　仲間と話し合う場面で、教師と一緒にチームでの活動に参加しようとしている。 | ○　グループで活動する場面や話合いを多く設定することで、仲間と関わる時間を増やし、連帯感や仲間意識をもたせる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  思考  判断  表現  Ｃ-４ | 2段階 | ・　仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝えている。 | ○　グループで活動する場面を多く設定し、仲間と関わる時間を増やし、仲間意識をもたせる。  ○　自分の意見を伝える態度や言葉遣いに注意させる。 |
| 1段階 | ・　仲間と話し合う場面で、教師と一緒に自分の考えや意見を見付けている。 | ○　具体例を交えながらグループで活動する場面を設定し、話し合いの場を設け、仲間と関わる時間を設ける。  ○　話合いへの関わり方や具体例を提示して、マナー等を学ばせる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師と一緒に話し合いに参加しようとしている。 | ○　イラストカードやＩＣＴ機器で具体例を示し、教師と一緒に話し合いの場に参加できる雰囲気づくりを行う。  ○　話合いへの関わり方や具体例を教師と一緒に確認し、マナー等を確認する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  思考  判断  表現  Ｃ-４ | 3段階 | ・　自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。 | ○　自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように助言する。  ○　発言するときに１人ずつ時間を設ける。 |
| 2段階 | ・　教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。 | ○　自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように教師が選択肢を与える。  ○　話し言葉やカードの指差しなどで表現できるようにする。 |
| 1段階 | ・　教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。 | ○　活動に使用する際に、児童の状況や仕草から興味を示したことを読み取り、児童に問いかける時間を設ける。 |

主体的に学習に取り組む態度D-1

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-１ | 2段階 | ・　球技の学習に見通しをもって積極的に取り組もうとしている。 | ○　授業の流れや内容を、学習カードや掲示物等で具体的に説明することで見通しをもたせ、安心して授業に取り組むことができるようにする。  ○　視覚化やパターン化を取り入れることで、次に何を行うのかを予測させ、自ら行動するように助言する。 |
| 1段階 | ・　球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 | ○　授業の流れや内容を、学習カードや掲示物等で具体的に説明することで見通しをもたせ、安心して授業に取り組むことができるようにする。  ○　視覚化やパターン化を取り入れることで、次に何を行うのかを予測させ、自ら行動するように促す。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　球技の学習に進んで取り組もうとしている。 | ○　授業の流れや内容を、学習カードや掲示物等で具体的に説明することで見通しをもたせ、安心して授業に取り組むことができるようにする。  ○　視覚化やパターン化を取り入れることで、次に何を行うのかを教師と一緒に確認させる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-１ | 2段階 | ・　球技の学習に見通しをもって取り組んでいる。 | ○　ＩＣＴ機器やイラストカード等で提示された球技の授業全体の流れを確認し、本時で身に付けたい技能や態度を考えさせる。  ○　視覚化やパターン化を取り入れることで、次に何を行うか予測させ、自ら行動するように促す。 |
| 1段階 | ・　球技の学習で提示された活動内容を確認しながら取り組んでいる。 | ○　ＩＣＴ機器やイラストカード等で提示された本時の授業の流れを確認し、活動内容と身に付けたい技能を確認させる。  ○　視覚化やパターン化を取り入れることで、次に何を行うか予測させ、進んで行動するように教師と一緒に確認させる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　球技の学習に教師と一緒に取り組もうとしている。 | ○　ＩＣＴ機器やイラストカード等で提示された本時の授業の流れを教師と一緒に確認し、活動内容と身に付けたい技能を確認させる。  ○　視覚化やパターン化を取り入れることで、次に何を行うか予測させ、教師と一緒に行動するように教師と一緒に確認させる。 |

主体的に学習に取り組む態度D-2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-２ | 2段階 | ・　マナーを守ったり、言葉掛けや拍手などで相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 | ○　事前に約束事を伝えたり、黒板や壁に掲示したりすることで、自ら確認させ、マナーやルールを意識させる。  ○　相手の動きの良いところを見付けて発表させることで、相手を尊重する気持ちや認める態度を育てる。  ○　マナーやルールが守れたときに称賛することで、主体的な行動を促す。 |
| 1段階 | ・　マナーやきまりを守り、フェアなプレイをしようとしている。 | ○　事前に約束事を伝えたり、黒板や壁に掲示したりしておくことで、マナーやルールを意識させる。  ○　ロールプレイを交えて説明を行うことで、視覚的提示を行い、体験を通して理解できるよう説明の仕方を工夫する。  ○　マナーやきまりが守れたときに称賛することで、生徒の意欲を高める。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　マナーやきまりを守り、誰とでも仲良くしている。 | ○　教師だけではなく、生徒同士の関わりを増やせるように、内容や教材を工夫する。  ○　マナーやきまりについて良い例と悪い例を視覚的に提示することで、自分で判断できるように促す。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-２ | 2段階 | ・　きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合っている。 | ○　ＩＣＴ機器や黒板、壁等に提示されたきまりやルールを確認し、フェアプレイを授業内で実践することを意識させる。  ○　ロールプレイを交えて説明を行うことで、視覚的提示を行い、体験を通して理解できるよう説明の仕方を工夫する。 |
| 1段階 | ・　きまりや簡単なルールを守り、友達と協力している。 | ○　ＩＣＴ機器や黒板、壁等に提示されたきまりやルールを確認し、仲間と一緒に授業に参加することを意識させる。  ○　きまりやルールを守れたときに称賛することで、生徒の学習意欲を高める。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　きまりや簡単なルールを守り、誰とでも仲良くしようとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や黒板、壁等に提示されたきまりやルールを確認し、教師と一緒に授業に参加することを意識させる。  ○　きまりやルールについて良い例と悪い例を視覚的に提示することで、教師と一緒に判断できるように確認させる。 |

主体的に学習に取り組む態度D-3

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-３ | 2段階 | ・　仲間と協力し、作戦などの話合いに参加しようとしている。 | ○　話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、活発な意見が出るように促す。  ○　ＩＣＴ機器を用いて客観的に自分たちの動きを確認させることで、具体的にどこを改善したらよいのかを考えさえる。 |
| 1段階 | ・　仲間と協力し、作戦などの話合いに関わろうとしている。 | ○　グループの教師が主体となって、話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、活発な意見が出るように促す。  ○　ＩＣＴ機器を用いて客観的に自分たちの動きを確認させることで、具体的にどこを改善したらよいかポイントを提示し、教師と一緒に確認する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師の支援を受けながら、作戦などの話合いに関わろうとしている。 | ○　教師と一緒にグループの話合いや活動に参加することで、仲間との関わりをもたせる。  ○　ＩＣＴ機器を用いて客観的に自分たちの動きを確認させることで、具体的にどこを改善したらよいかポイントを提示し、教師と一緒に確認する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-３ | 2段階 | ・　仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード等で提示された話し合う内容、作戦を教師が主体となって明確に示し、確認・意見の交換をさせる。  ○　ＩＣＴ機器を用いて客観的に自分たちの動きを確認させることで、具体的にどこを改善したらよいかポイントを提示し、教師や仲間と一緒に確認する。 |
| 1段階 | ・　作戦などの話合いに関わろうとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード等で提示された話し合う内容、作戦を教師と一緒に確認し、自分の意見を発言させる。  ○　ＩＣＴ機器を用いて客観的に自分たちの動きを教師と一緒に確認することで、具体的にどこを改善したらよいかポイントを提示し、確認させる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師と一緒に、作戦などの話合いに関わろうとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード等で提示された話し合う内容、作戦を教師と一緒に確認し、話合いの場に参加させる。  ○　ＩＣＴ機器を用いて客観的に自分たちの動きを教師と一緒に確認することで、具体的にどこを改善したらよいかポイントを提示し、教師と一緒に確認する。 |

主体的に学習に取り組む態度D-4

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-４ | 2段階 | ・　練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 | ○　練習の行い方やポイントを載せた学習カードを作成することで、つまずきを感じたときや仲間にアドバイスをする際に、ポイントを明確にして活用させる。  ○　ＩＣＴ機器を用いて動画を撮影し、動きを確認させることで、動画を見ながらアドバイスできる環境を設定する。  ○　練習に必要な用具の準備や片付けをさせたり、グループでの活動時間を多く設定したりすることで、仲間との連帯感やチームワークを高める。 |
| 1段階 | ・　仲間と一緒に練習の補助をしたり会話をしたりして、仲間と一緒に関わろうとしている。 | ○　練習の行い方やポイントを載せた学習カードを作成することで、その練習に必要な力やそれぞれの課題に気付かせる。  ○　練習に必要な用具の準備や片付けをさせたり、グループでの活動時間を多く設定したりすることで、仲間との連帯感やチームワークを高める。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　仲間と一緒に練習に参加し、仲間を認め、応援しようとしている。 | ○　仲間や教師と一緒に関わる時間を多く設定し、連帯感やチームワークを感じさせる。  ○　仲間の良いプレイがあった際に、称賛し、場を盛り上げることで、仲間を認め、応援する気持ちなどに触れさせる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-４ | 2段階 | ・　仲間と一緒に練習の補助をして、仲間と一緒に関わろうとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード等で提示された補助方法のためのヒントを見て、仲間に必要な補助をさせる。  ○　練習の行い方やポイントを載せた学習カードを作成することで、その練習に必要な補助やその行い方に気付かせる。 |
| 1段階 | ・　仲間と一緒に練習に取り組んだり、会話をしたりして、仲間と一緒に関わろうとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や学習カード等で提示された補助方法や助言のためのヒントを見て、仲間と協力して練習に取り組ませる。  ○　グループでの活動時間を多く設定することで、仲間との会話を通して仲間に関わる場面設定を行う。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　仲間と一緒に練習に参加し、仲間を認め、応援しようとしている。 | ○　仲間の良いプレイがあった際に称賛し場を盛り上げることで、仲間を認め、応援する気持ちなどに触れさせる。  ○　仲間の動きを見て、良い動きを教師と一緒に見付け、応援や称賛をさせる。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  主体的に学習に取り組む  態度  D-1・Ｄ-２  D-３・D-4 | 3段階 | ・　簡単なきまりを守り、友達と楽しくボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている。 | ○　時間になったら交代することや、用具を元の場所に戻すことなどイラストカードを使ってきまりを守るように確認する。  ○　教師の手本やＩＣＴ機器で動画を見せて意欲を高めさせる。必要に応じて手や足の動かし方を支援する。 |
| 2段階 | ・　簡単なきまりを確認し、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている。 | ○　時間になったら交代することや、用具を元の場所に戻すことなど必要に応じてイラストカードを使ってきまりを守るように確認する。  ○　教師の手本やＩＣＴ機器で動画を見せて意欲を高めさせる。必要に応じて手や足の動かし方を支援する。 |
| 1段階 | ・　教師と一緒に簡単なきまりを確認し、ボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている。 | ○　時間になったら交代することや、用具を元の場所に戻すことなどその都度教師が促し、イラストカードを使ってきまりを守るように確認する。  ○　教師が手本を示し、必要に応じて手や足の動かし方を支援する。体を動かそうとしたら称賛する。 |

主体的に学習に取り組む態度D-5

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 高等部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-５ | 2段階 | ・　場や道具の安全な使い方を考え、健康・安全に気を付けようとしている。 | ○　どこに何を準備すればよいかを視覚的に分かるように、実物の写真やイラスト等を掲示する。  ○　片付けの際には、タイマーで時間を計ることで、周りを見ながら素早い行動ができるように時間を意識させる。  ○　授業の始めに健康観察を行い、自分の体調を確認させる。 |
| 1段階 | ・　場の使い方、用具の扱い方、健康に気を付けようとしている。 | ○　どこに何を準備すればよいかを視覚的に分かるように、実物の写真やイラスト等を掲示する。  ○　片付けの際には、役割を決めて責任感をもたせることで、主体的な行動を促す。  ○　授業の始めに健康観察を行い、自分の体調を確認させる。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師と一緒に、安全や健康に気を付けようとしている。 | ○　どこに何を準備すればよいかを視覚的に分かるように、教師と一緒に実物の写真やイラスト等の掲示物を確認する。  ○　授業の始めに健康観察を行い、教師と一緒に自分の体調や様子を確認する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 中学部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-５ | 2段階 | ・　安全や健康に気を付けようとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や図、写真などで道具の使用方法や危険な扱い方を確認し、練習中に実践させる。  ○　片付けの際には、役割を決めて責任感をもたせることで、主体的な行動を促す。  ○　授業の始めに健康観察を行い、自分の体調を確認させる。 |
| 1段階 | ・　場の使い方、用具の扱い方、健康に教師と一緒に気を付けようとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や図、写真などで道具の使用方法や危険な扱い方を確認させる。  ○　授業の始めに健康観察を行い、自分の体調を確認させる。  ○　どこに何を準備すればよいかを視覚的に分かるように、実物の写真やイラスト等の掲示物を確認する。 |
| 常時支援を必要とする生徒 | ・　教師と一緒に、安全や健康に気を付けようとしている。 | ○　ＩＣＴ機器や図、写真などで道具の使用方法や危険な扱い方を、教師と一緒に確認させる。  ○　どこに何を準備すればよいかを視覚的に分かるように、教師と一緒に実物の写真やイラスト等の掲示物を確認する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 各段階 | 評価 | 具体的な手立て |
| 小学部  主体的に学習に取り組む  態度  Ｄ-５ | 3段階 | ・　用具の安全な扱い方に気を付けようとしている。 | ○　どこに何を準備すればよいかを視覚的に分かるように、実物の写真やイラスト等の掲示物を確認させる。  ○　教師が用具の正しい使い方を質問し、考えさせる。 |
| 2段階 | ・　教師の支援を受けながら、用具の安全な扱い方に気を付けようとしている。 | ○　どこに何を準備すればよいかを視覚的に分かるように、教師と一緒に実物の写真やイラスト等の掲示物を確認させる。  ○　用具の使い方についてイラストを使用し、確認させる。 |
| 1段階 | ・　教師と一緒に、用具を安全に扱おうとしている。 | ○　どこに何を準備すればよいかを視覚的に分かるように、教師と一緒に実物の写真やイラスト等の掲示物を確認させる。  ○　場面に応じて必要な言葉掛けを行う。 |